

診療所トップの Top Breakthrough Force 突破力

診療部門とリハビリ部門の 最大限の相乗効果を発揮

2022年5月開業ながら、すでに1日100人もの患者が訪れている、けやきクリニック整形外科。
石川峻院長が推進するのは、医師とリハビリスタッフ双方の専門性と自立的な働きに基づく、精度の高いアプローチだ。

石川 峻

けやきクリニック整形外科院長

いしかわ・たかし●2008年、岐阜大学医学部卒業後、11年に金沢大学整形外科入局。金沢大学附属病院、済生会高岡病院、金沢市立病院、済生会金沢病院、金沢聖霊病院などで勤務。金沢大学附属病院では、タイで初の脊椎悪性腫瘍の高難易度手術に同行した。22年5月にけやきクリニック整形外科を開院し院長に就任。現在に至る

リハビリ部門の独立性を担保 相互に情報・計画を共有

「整形外科医による治療とリハビリテーションのさせるチカラとのコラボレーション」を治療方針に掲げられています。

石川 自身勤務医時代には脊椎疾患を専門にしており、多くの難解な手術に携わってきました。一方で手術にも限界があることや、そもそも手術がしたくない、もしくは本当は手術が不要な患者さんも大勢いるのを見てきました。そこで、開業においての診療の軸となるものは、手

術とはある意味対極にあたる「保存療法」であり、理学療法士と連携して取り組みリハビリテーションがその中核を成すと考えています。

開業スタート時より、理学療法士の2人は現在の当院のコンセプト構築により深くかわつてくれてます。「どんな医療を提供できるクリニックだと面白いのか、より患者さんのneeds」に答えられるか」について、それぞれの経験を持ち寄り、彼らと日々議論するなかで新しい視点や取り組みが生まれてきました。

この治療方針の実現のため、特にリハビリの体制にはかなり力を入

れておられると聞きました。

石川 広く開放的なリハビリ空間の設計にも注力しましたが、特に重視したのが、診療部門とリハビリ部門の連携体制です。それぞれの知見から評価や提案を行い、相互にフィードバックしながら多角的に患者さんへアプローチすることで、より精度の高い治療とアウトカムを生み出すことを目的としています。そこで、設備もリハビリ部門の独立性をある程度担保するように整備しました。たとえば、当院の受付とは別にリハビリ専用受付を設け、スタッフも1人配置しています。そのうえで、

代を主な患者層に捉えています。

CPY® ヨガを取り入れ より質の高いリハビリ効果へ

治療・リハビリの質向上で言えば、「CPY®」※というヨガメソッドも取り入れています。

石川 PTの1人がCPY®の養成認定資格を持つていたのがきっかけでした。一般的なヨガよりも身体機能へのアプローチに特化し、整形外科医としても使い勝手がよく説得力のある運動療法になると感じました。そこで、当院のリハビリの特徴の一つとして、これを取り入れた指導を行うべく、私やもう一人のPTも資格を取得しました。

開業前から金沢市内の知り合いの整形外科診療所や地域のスポーツクラブや部活動で出前教室をしたほか、開業後は日々の保険診療のリハビリでCPY®のプログラムを応用しているほか、けがの予防や再発防止、身体のコンドیشنニングを目的とした自費のヨガクラスも開始しました。通院に加えて、さらなる機能向上に取り組みたい患者さんなどを中心に参加いただいています。

最後に、今後の展望を教えてください。

石川 開業から3カ月ですが、あり



けやきクリニック整形外科の全景



診療放射線技師も配置し、検査体制も充実



ヨガクラスの様子



天井が高く、木の梁などが印象的な院内

Q&A 7問7答

Q1 自分の性格は？
フロンティアスピリット（開拓者精神）

Q2 自分の欠点は？
せっかち、忙しくし過ぎるところ

Q3 今はまっているものは？
フットサル

Q4 人生で最も影響を受けた人は？
両津勘吉（『こちら葛飾区亀有公園前派出所』（集英社））

Q5 日課はありますか？
早起きしてヨガと筋トレ

Q6 座右の銘は？
「考えるな、感じろ。」
Don't think, feel（ブルース・リー）

Q7 トップに必要な素養は？
説得力。

※：CPY®(Core Power Yoga)
一般的なヨガから瞑想・哲学・サンスクリット語を省略し、スポーツ医学に基づいた機能解剖・運動力学・バイオメカニクスを重要視したメソッド。身体機能の改善を目的とするコンディショニングトレーニングとして、障害予防やリハビリテーションにも活用できる運動療法として注目されている。